

JICA研究所
プロジェクト・ヒストリー・ミュージアム
JICA Project History Museum

南米チリをサケ輸出大国に変えた日本人たち

ゼロから産業を創出した国際協力の記録

日本/チリ・サケプロジェクト

3. 親が育てば子も育つ:サケの生簀による海面養殖
(エンセナーダ・バハ)



サケ飼育生簀(海面)

孵化場側は浅いため、生簀は対岸の方に設置。この生簀で成魚・親魚まで3～4年飼育して、チリ産稚魚(2世)を放流した。

提供:長澤 有晃 氏



海面生簀管理及び調査のため、小型船が日本から提供された(1980年)。

提供:長澤 有晃 氏



エンセナーダ・バハ孵化場対岸の海上に設置された養殖生簀。成魚まで3～4年、飼育する(1981年)。

提供:長澤 有晃 氏



エンセナーダ・バハの海上に作られた浮き生簀。孵化場側は浅いため、生簀は孵化場の対岸の方に設置。この生簀で成魚・親魚まで3～4年飼育して、チリ産稚魚(2世)を放流した。

提供:長澤 有晃 氏



チリ産サケ卵の生産を目的に親魚養成実験を開始（海面）。
これが後に養殖企業へ波及した（1981年）。

提供：長澤 有晃 氏



提供：長澤 有晃 氏



対岸から生簀遠望(フィヨルド内)

提供:長澤 有晃 氏



生簀のそばには首黒白鳥やフラミンゴが飛来する。湾内(フィヨルド)から見たエンセナダ・バハ孵化場。(首の黒い白鳥はチリのこの地方に特有の白鳥)

提供:長澤 有晃 氏



1980年代には企業化が進み、沿岸一帯にチリ財団の養殖生簀が出現した。

提供:長澤 有晃 氏



オットセイハーレム

「サケの天敵オットセイ。このようなハーレムがフィヨルド内の各処に見られ、餌食となるサケは多いと推察され、オットセイを見る度に実にむなしい情けない思いをした。」
(長澤専門家の回想)

提供: 長澤 有晃 氏



生簀の対岸に稚魚生産用の孵化場が建てられた(エンセナーダ・バハ1981年)。

提供:長澤 有晃 氏



長澤リーダー(左)と浅井専門家(右)

一方、孵化場では淡水池でも親魚養成実験が行われた。とにかく種卵がほしかった。

提供:長澤 有晃 氏



日本チリパートナーシッププログラム(JCPP)のポスター：サケプロジェクトも紹介されている。

提供：長澤 有晃 氏

MINISTERIO DE ECONOMIA
FOMENTO Y RECONSTRUCCION
SERVICIO NACIONAL DE PESCA

PISCICULTURA

ENSENADA BAJA

PROYECTO CHILE-JAPON

INTRODUCCION SALMON DEL PACIFICO

AYSEN, 6 DE NOVIEMBRE DE 1981

エンセナーダ・バハ孵化場（日本の協力で1981年建設）（2008年撮影）
提供：細野 昭雄



エンセナーダ・バハ孵化場の一部(2008年)
提供: 細野 昭雄